

サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成21年度会員 (敬称略・順不同、2009年8月1日～9月30日)

(正会員)

ハリウコミュニケーションズ(株)、(特)ミヤギユースセンター、山田晴義、片倉玄、渡辺博之、長谷川公一、加藤哲夫、岡田真秀、大滝精一、佐々木伸、八木充幸、青木ユカリ

(準会員)

沖永哲哉、佐藤由里、日向則子、川崎あや、(特)友愛さくら、遊佐さゆり、松尾敏行、(社)仙台青年会議所、楠喜博、中野勇也、小浜耕治、大泉太由子、クリーンアップ蒲生、工藤聡子、Anego、横須賀和江、瀧澤陽子

■企業・団体協力 (50音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

加藤哲夫のNPO経営相談

開催日：平成21年11月19日(木)

平成21年12月22日(火)

開催時間：10:00～14:00

場所：せんだい・みやぎNPOセンター

相談料：2,500円(1時間単位、会員は500円引き)

※予約制です。まずはお電話を。

プロペラトークス vol.4

第4回目に「いのち」のリレーを紡いでくださるトークゲストは、雇用格差に真っ向から立ち向かい、労働相談や政策提言などを行っている、特定非営利活動法人POSSEの代表、今野晴貴さんです。

(<http://www.npoposse.jp/index.html>)

日時：11月19日(木)19時～21時

会場：Cafe & Bar "Waterr"

(青葉区一番町1-11-20 SUGA-DUNビル2F)

参加費：2500円程度(1ドリンク、軽食付き)

※予約制です。定員になり次第締め切ります。

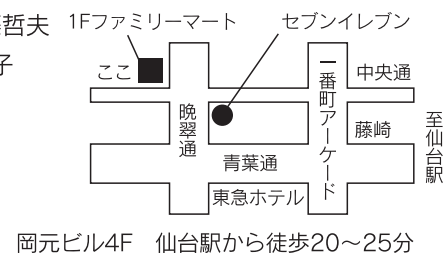
併せて当センターブログもご覧下さい。

連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail: minmin@minmin.org HP: <http://www.minmin.org/>

発行：(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミーリマート セブンイレブン
編集部：小川真美・紅邑晶子
発行日：2009年11月1日
デザイン：氏家朗



サポセン感謝祭

サポセン10周年大感謝祭 こんなサポセン見たことない！！

開催日：2009年11月29日(日) 10:00～18:00

会場：仙台市市民活動サポートセンター 全館

主催：仙台市(仙台市市民活動サポートセンター)

共催：仙台市シニア活動支援センター

せんだいCARES2009実行委員会

詳細：<http://www.sapo-sen.jp/>

サポセン10周年を記念して、仙台で活動するボランティアや市民活動団体の皆さんと様々なイベントを開催します。

せんだい・みやぎNPOセンター主催 「大！新年会」

今年、多くの方々に大好評だった新年会、今回もまた、ちやくちやくと準備を進めている最中です。

詳細が決まりました、当センターHP、ブログなどでお知らせして参ります。

NPO関係者、行政、企業をつなぐ新年会、今回も皆さまのご参加、スタッフ一同心よりお待ち申し上げます。

| 編 | 集 | 後 | 記 |

早いもので、新年会のお知らせをする時期となりました。多くの皆さんにご好評頂いた、今年の新年会がついこの前のように思い出されます。使い古されたフレーズですが、アツと言う間に月日は経っていきます。明日、1年後、3年後の自分に"ツケ"を残すことのないよう、今日しなければいけないことを先延ばししない！を心に留め、秋の日のつるべ落としのような人生を過ごしていきたいと思えます。(OGAWA)

2カ月ごとにめくるカレンダーも、ついにあと一枚になりました。ということは、そろそろ来年の手帳の準備をしなければ。そういえば、沖縄には沖縄手帳というものがあった、これが毎年ベストセラーになっているそうです。種類もいろいろあり、沖縄独特の季節表現やの歳時記情報、年中行事や各地のイベント情報などが載っているそうです。中には、BEGINがイカ天でチャンピオンになった日とか沖縄限定の記念日も記載されています。こんな地域限定手帳、県別にあつたらおもしろいと思えました。皆さんは、宮城県なら、どんな記念日をいれたいですか？わたしは、やっぱり「どんと祭」ですね。(べにむら)

2009年11月1日

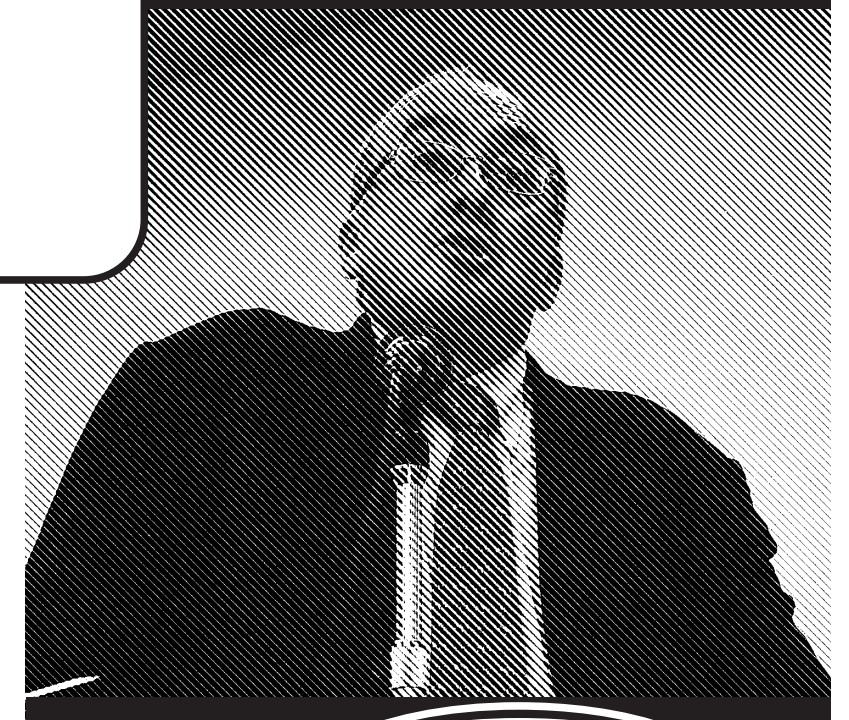
Vol.66

みみん



【題字】谷川俊太郎さん

第11回 通常総会記念講演 スティーブン・バブさん



日本サードセクター経営者協会ACEVO発足記念イベントのため、緊急来日された英国ACEVO経営者のスティーブン・バブさん。9月1日の東京会場を皮切りに、連日のハードスケジュールをこなされ、最終日は仙台、当センター通常総会後の記念講演でした。ACEVOの組織機能を拡充し、会員を1000人から2000人にするなど、組織を急成長させた方のお話から私たちが学べるポイントは枚挙にいとまがありません。滅多にないこのチャンス、多くの方が興味深く伺いました。

■目次

- P2～4 第11回通常総会記念講演
- P5…… せんだい・みやぎNPOセンターの事業から(2009年8月—9月)
- P6…… 多くの気づきがあるインターンシップ
CSRセミナーご報告
- P7…… らんち de MATCH♪
- P8…… 新規会員・継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

通常総会記念講演

第11回通常総会記念講演

日本サードセクター経営者協会設立記念シンポジウム

「成功へのレシピ、海図のない航海へ」

■日時:2009年9月5日(土)16:00~18:00

■会場:仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール

■講師:スティーブン・バブ氏 ACEVO(全英サードセクター経営者協会)CEO(事務局長)

日本において、非営利セクター(サードセクター)の経営者が、縦割りの分野を超えて共に学び合い、社会へ向かって発信する「日本サードセクター経営者協会(JACEVO)」が設立されました。その設立の参考となったのが、全英サードセクター経営者協会(ACEVO)です。サードセクターの役割と可能性、それを支える組織(経営者協会)に求められるサービスについて、ACEVOを会員2000人規模の組織に育て上げたCEO、スティーブン・バブ氏に講演いただきました。

■英国におけるサードセクターの役割とACEVO

今回の講演は、演題を「成功へのレシピ、海図のない航海へ」としました。なぜなら、日本では先日、政権交代が起きまし、イギリスでも近々、政権交代が起きる可能性が高いからです。

まず、自己紹介をしますと、私は、ACEVOのCEOを10年間務めております。日本に縁のあるウィリアム・アダムス(三浦按針)と同じ、ケント州ジーンガムの出身です。アダムスは、西洋の造船技術を日本に伝え、日本で生涯を終えました。私は、ACEVOのことを日本に伝える役目で来日しましたが、日本で生涯を終えるのではなく、生きてジーンガムに戻りたいと思います。

イギリスのチャリティの歴史は長く、ACEVOの会員の中には、約千年前に設立された団体の経営者もいます。アダムスが来日したのとちょうど同じ時代に、イギリスでは、最初のチャリティに関する法律が成立しました。イギリスの学校や病院は、そのほとんどが、チャリティによって設立されています。

イギリスにおけるサードセクターの役割は2つあります。1つは「サービスの提供」で、もう1つが「政策・法律の整備」です。イギリスのサードセクターは古くより、社会を変えるためのキャンペーンをしてきました。19世紀の例をあげると、子どもの権利擁護、動物保護、奴隷制廃止などのキャンペーンが展開されました。

イギリスのサードセクターの規模は、千二百億ポンド(約18兆円)で、これは自動車産業や農業よりも大きな規模となっています。

また、サードセクターで働く人々の方が、銀行員の総数よりも多いことから、サードセクターが、非常に大きい規模であることがご理解いただけるでしょう。

イギリスのサードセクター組織は約30万あり、NPO、ボランティアグループ、NGO、社会的企業、学校など多様な団体が構成されています。ACEVOの会員となっているのは、そのうちの約2000名で全体の1%以下ですが、事業高では全体の50%を占めると言われています。

ACEVOの役割は、会員をつなぎ・伸ばし・支援し・代表することです。ACEVOが最も重視するサービスは、個別のCEO

通常総会報告

9月5日(土)、当センターの「第11回通常総会」が開催されました。司会の針生理事より定款23条に基づき議長の選任を行い、議長、大滝代表理事のもと総会成立を確認、その後、議事録署名人を泉田儀明さん、渡邊兼光さんをお願いしました。

最初に第1号議案「2008年度の事業報告と決算報告について」、第2号議案「2009年度の事業計画と予算案について」、正会員の方からいただいたご意見・ご質問により一部加筆修正することを含め満場一致で承認されました。また、当センターの常務理事・仙台市市民活動サポートセンターセンター長であった黒澤学が8月をもって退任・退職し、後任としてセンター長には副センター長の小松州子が就任したことを報告しました。

なお、総会終了後、所轄庁、法務局、税務署等への届出を9月中旬に完了しましたことをご報告いたします。

当日は、会場から多数の激励のお言葉をいただきました。せんだい・みやぎNPOセンターは、今後も皆様のご期待に沿えるよう頑張っております。(桃生和成)



に対する助言と支援です。例えば、経営者と従業員のトラブルへの法的支援などを行っています。

また、サードセクターのCEO向けに、講座や研修を提供しています。次世代の経営者向けの講座や、経営者が知っておくべき法的責任について学べる講座などがあります。他にも、出版事業も手掛けていますし、4日に1度は何らかのイベントや会議がある忙しい組織です。

ACEVOの会員には、いろいろな特典があります。ロンドンの会議施設を利用できますし、企業経営者協会、芸術協会などの会員権も与えられます。

このような多岐にわたるサービスで、会員を獲得してきました。

■公共サービス改革とサードセクター

ACEVOは、政府と密接な関係にあります。ACEVOの20周年を祝うレセプションは首相官邸で行われましたし、毎年行っているCEOのサミットには、閣僚やサードセクターに関する政策を担当している政治家なども参加しています。

首相や政府高官などと様々なつながりを持っており、サードセクターに関連する法律などについて、政府から相談される立場にあります。サードセクターを扱う省庁の設置を政府に働きかけ、内閣府の中にサードセクター局が設置されたという実績もあり

ます。

ゴードン現首相もACEVOを応援しており、「サードセクターの現在、そして将来の経営者の育成に取り組んできたACEVOに感銘を受けている」との発言もありました。

ACEVOと政府が密接な関係にある背景には、サードセクターが法整備に関与してきた長い歴史があります。このような歴史を引き継ぎ、今でも、メンタルヘルス、ホームレス、若者、動物保護などの法律立案の際には、ACEVOが相談に乗っており、ACEVOの会員が法律の起草をしていることも少なくありません。

イギリス政府のここ5年の重視事項は、公共サービスの改革です。2005年の総選挙の際には、労働党のマニフェストをACEVOが書き、実際に政策に反映されました。

ブレア元首相との会談の際には、公共サービスにおけるサードセクターの役割について、サードセクターは国よりもすばらしい公共サービスを提供できると強調しました。なぜなら、サードセクターは市民や地域に近く、柔軟で、官僚的でなく、革新的なサービスを提供でき、起業家精神にあふれた提案ができるからです。

公共サービス改革の個別政策について、どのように改革していくかを書いたACEVOのレポート(Sure Funding Commission)は、政府の施策にとりいれられました。このレポートには、サードセクターが公共サービスを担うにあたり、どのような機会と障害があるかが記されています。

このレポートの中で、私たちは、障害を解消し、公共サービスにおけるサードセクターの役割を強化するための提言として、サードセクターへの事業委託について、「政府がサードセクターに出す委託費を全経費保障(フルコストリカバリー)にすること」、「3年以上の長期契約とすること」、「手続きを行う政府職員への研修を導入すること」の3点を主張しました。

イギリスは、来年10月に政権交代が起り、保守党政権になる可能性が高いです。保守党政権では、財源がカットされる見込みです。財源がカットされれば、公共サービスの改革、民間委託がより推進されることが予測されます。サードセクターの役割は、保守党政権になっても、より大きくなると考えられます。つまり、保守党政権でも労働党政権でも、ACEVOは必要とされているのです。

これまで、労働党政権と強力な関係を築いてきましたが、昨年保守党の政治家、政策を作る実務家レベルの人との会合を重ねてきています。また、ACEVOは、会員が保守党の人と会える機会も提供してきました。ワーキンググループをつくり、保守党のサードセクター施策がどのようなものになるか検討してきています。

公共サービスをサードセクターが担えることをお話ししましたが、日本でも政権交代のこの機に、みなさんで何ができるのかを検討することをお勧めします。



■国を超えた取り組みへ

私たちは、サードセクターの経営者が起業家精神にあふれていることを社会に理解してもらいたいと考えており、様々な資源へのアクセスを向上させるキャンペーンを展開しています。

その一環として、3年前には、フューチャービルダーズを立ち上げました。政府が四千五百万ポンド(700億円)の基金をつくり、それをフューチャービルダーズが、サードセクターへ融資しています。この基金は、サードセクターの力をあげるために大いに役立っています。現在は、基金の全額が政府予算からの出資になっていますが、将来的には、企業からも出資してほしいと考えています。イギリスだけでなく、ヨーロッパ全体への展開を考えており、企業が寄付をするときに、この基金を選んでもらえるようにしたいと考えています。

ACEVOでは、サードセクターの経営者がお互いに学び合う

ことを重視してきました。リーダーシップは組織の中や、国の中だけでなく、国を超えて学び合えるものですので、国際的なリーダーシップを開発する取り組みを行っています。国際的に同じ立場にある人が出会える場を提供することが、ACEVOの役割だと考えています。2007年に、フランスとスウェーデンで、ヨーロッパのサードセクターのリーダーが集まる組織を作りました。それが欧州サードセクター経営者ネットワーク(EUCLOUD)です。そして、JACEVOの発足にあたり、ACEVOは、良好な関係を築いていきたいと考えています。CEOのリーダーシップに対するサポートや、サードセクターの役割を日本社会で推進することで連携していきましょう。政権交代は、公共サービスの改革について提言できる絶好の機会です。変化を起こせる組織となるため、組織を強化し、他の組織との連携やアジアとの連携を強化していきましょう。(太田貴)

せんだい・みやぎNPOセンターの事業から (2009年8月-9月)

せんだいCARES 七夕チャリティ シャッター代行サービス

今年も仙台のNPOの活動をご紹介するキャンペーン「せんだいCARES」の運営資金を集めるべく、せんだい・みやぎNPOセンタースタッフや実行委員、インターン、大学生、そしてせんだいCARES参加NPOや企業の方など、総勢40名ほどで「写真シャッター代行サービス」というドネーション(寄付)集めを行いました。今回は、七夕チャリティシャッター代行サービスのことをもっとわかりやすく理解していただけるように、募金して下さったお金の使い道とせんだいCARESの活動目的をわかりやすく書いたチラシをお渡ししました。おかげでシャッター代行サービスをご利用いただいた皆さんから気持ちよく募金していただくことができました。

■お客様からの嬉しい声

当日、仙台のアーケードは七夕飾りでいっぱい！その飾りをバックにみんなで写真を撮ってもらえるとあって、お客さんの列もとぎれません。

「こういうサービスがあると助かるわ」

「去年も取っていただいたから、今年もと思って、また来ました」など、3年目になるとうれしい声もたくさん聞くことができました。観光客のみならずのお役にも立てて、そして仙台のNPOを応援するせんだいCARESの運営資金を集めることもできて、まさに一石二鳥！

■目標金額をクリア！

この3日間に集めた募金の総額は、合計12万6545円でした。目標としていた10万円を見事にクリアし、まずはひと安心！改めて御協力いただいた皆様、ありがとうございます。皆様からお預かりしたお金は、仙台の市民活動団体をより多くの市民にお知らせするせんだいCARESのパンフレットの制作費として使わせていただきます。パンフレットは10月1日から仙台市市民活動サポートセンターをはじめとした仙台市の施設やお店で配布されます。

撮影場所のご提供にご協力いただきました「牛なべ人間」さん、「キリンリアルエステート」さん、フライヤーを印刷協力していただきました「富士ゼロックス」さんには深く感謝申し上げますとともに、来年もどうぞよろしく願いいたします。(田内亜紀子)

2009年度 「ろうきん地域貢献ファンド」 審査会

8月18日(火)、東北労働金庫宮城県本部9階会議室において、「ろうきん地域貢献ファンド審査会」が行われました。今年度の特徴は、福祉分野の応募が多く、多くの市民がボランティアとして参加できるイベントなどへ助成しました。

■1ヶ月の募集期間を経て、11団体からの応募

2009年度で運用開始から7年目を迎える「ろうきん地域貢献ファンド」。今年度は、企画事業・組織開発助成(Aコース)と、備品購入応援(Bコース)の助成が行われました。募集要項に基づいて7月1日(水)~7月31日(金)の1ヶ月間募集を行ったところ、11団体からの応募がありました。Aコース6団体、Bコース5団体の応募があり、これらの助成の可否を判断するため審査会を開催しました。

■厳正なる審査の結果、総額147万9500円の助成が決定

審査会当日は、設置者を代表して、東北労働金庫宮城県本部の佐々木繁担当部長様より御挨拶をいただきました。そして審査委員の自己紹介に続き、ファンド事務局を務めるせんだい・みやぎNPOセンターの加藤哲夫代表理事から、応募状況の概況説明と応募団体の紹介後、審査委員の皆様が審査を行いました。

審査にあたっては、助成案件の評価項目として、Aコース企画事業・組織開発コースでは、必要性、参加性、成果目標・発展可能性、地域貢献性、実現性、Bコース備品購入応援コースでは、地域貢献性、必要性、適正性、発展性、共通評価項目として情報公開性に着眼し、評価を行った結果、8団体へ総額147万9500円の助成が決定しました。(谷口恵子)

■Aコース

特定非営利活動法人みやぎ発達障害サポートネット
特定非営利活動法人杜の都仙台ナショナルトラスト
TAP多賀城(タウン・アクティブエーション・プロジェクト)
障害者社会参加劇団 劇団ファットブルーム
みやぎアピール大行動実行委員会

■Bコース

特定非営利活動法人ネットワークオレンジ
青少年と障がい者の自立支援センターとおきの広場
みやぎ手話工房フロムハート

多くの「気付き」があるインターンシップ

10月現在、大町事務局には3名のインターンが在籍しています。その彼らに今回、アンケートをとりました。質問は以下の3つ。

Q1.インターンを通して、NPOや市民活動に対しての考えはどのように変化しましたか？

Q2.勉強になっていることを3つまで挙げてください。

Q3.インターン最終日まで何を学びたいですか？

まずは一番歴の長い、針生一平さん。(東北学院大学経済学部2年、09年4月～、週1日)

Q1.最初はNPOに対して特別な感じがしていましたが、地域や社会を良くする為に働いている、素晴らしい組織だと思っています。

Q2.出張での調査や話を聞く、電話の対応、印刷に関する仕事。

Q3.潜在的に存在しているであろう、地域に関する問題がまだまだ発見できると思うので、私なりに問題について考えられるようにしたいです。

次に中国からの張洋さん。(東北大学大学院教育学研究科博士課程、09年7月～、不定期)

Q1.セミナーや団体訪問を通して、NPOの方々とお話をさせて頂

きました。「第3セクター」の一部であるNPOは、社会を変える力を持っていると思います。

Q2.NPOのマネジメント、イベントの企画、電話の対応。

Q3.センターの関連資料を読むこと、センターの会議に出ること。

最後に、10月23日(金)を最後に京都に戻ってしまった杉山英由さん。(京都大学経済学部4年、09年8月～10月、週4日)

Q1.営利団体の業務において、非営利団体による市民目線の需要が増えていると思うので、NPO活動は更に重要視されていくと感じました。

Q2.学生時代の人間関係とは違う社会的人間関係。

Q3.人との出会いと新しい知識の習得などから自身の成長に繋がっていきたくです。

3名それぞれに学んで頂いているようですが、インターンシップ制で学ぶのはインターンだけではありません。実は我々スタッフも彼らを通じて様々な気づきを得ています。双方この経験を踏まえ、身に落とし込んで、そして知恵にしていきたいと思ひます。(小川真美)

第3回CSRセミナー in せんだい

「地元企業に学ぶ、新しい時代のビジネスモデル」

8月28日(金)仙台市市民活動サポートセンター・セミナーホールにてCSRセミナーを開催しました。今回も前半はセミナー、後半は交流会という組み立てで、44名の企業や行政、NPO関係者の方々にお集まりいただきました。

■新しいタイプの優良企業は静かに不況期に注目される

今回のセミナーの基調講演は、東北大学大学院経済学研究科の大滝精一教授(当センター代表理事)より、「地元密着型企業に求められる儲かるビジネスモデルとは」と題してご講演いただきました。「新しいタイプの優良企業は静かに不況期に注目される」というお話では、これまでの企業のビジネスモデルとは違った視点、①企業はゆっくり少しずつ成長する、②企業のスケールはヒューマンスケールでよい、③事業は利益を上げる手段というより事業への愛着が大切、という3つのポイントをご紹介いただきました。いずれも聞き逃すことができないお話が続き、あっという間に講演が終了しました。

■設立9年のベンチャー企業と

創業158年の老舗の共通点

続いて、仙台市の有限会社アゾット・代表取締役社長の相澤謙市さんからは、Tシャツ制作をする企業として、急成長して

いる設立9年という若い企業のとりくみについて。障害者施設やドメスティック・バイオレンスの被害にあった児童施設などに出張して、障害者や子どもたちと一緒にTシャツづくりをするといった活動をしています。この活動に社員が参加することで、相澤さん自身もまた社員もいろいろな気づきがあり、それを仕事の現場に生かすことで新たなチャレンジのもとになっているとのことでした。郡山市の株式会社柏屋さんの「青い窓」ご担当の橋本陽子さんからは、柏屋とは別の組織を設けて子どもたちから寄せられる詩を本店のショーウィンドーで紹介し続けるという活動についてお話しいただきました。2つの企業に共通していたのは、あえて社会貢献活動と捉えずに、「自分たちがやりたいことをやる」といった、まさにボランティアな思いがあつて、結果的にそれが無理なく継続した活動として企業を支える取り組みになったということでした。最後に参加者全員に「CSRプラス大賞」に当センターからエントリーする企業を投票により選んでいただきました。当日の様子は当センターのブログにてぜひご覧ください。

(紅邑晶子)

※投票により選ばれた(株)柏屋さんが、第3回CSR大賞の地域推薦部門で銀賞を受賞なさいました。おめでとうございます！
http://blog.canpan.info/csaward_2009/archive/16

らんち de MATCH♪ 第6回

今回の「らんち de MATCH♪」、ゲストは特定非営利活動法人「みやぎ発達障害サポートネット」事務局長の伊藤あづささんと、特定非営利活動法人「ほっぷの森」事務局長の後藤まつ子さんです。みやぎ発達障害サポートネットさん(<http://blog.canpan.info/mddsnet/>)は発達障害(※1)とその周辺の方へのサポートを行っている団体で、ほっぷの森さん(<http://www.hop-miyagi.org/>)は知的と高次脳機能障害(※2)を持つ方の就労支援をなさっているNPOです。てっきりお知り合いかと思ひきや、「はじめまして」と名刺交換。互いに団体はご存じだったようで、打ち解けた雰囲気が始まりました。

—ケアする人のケアって絶対必要！—

当センターでは来年開催の「ケアする人のケア」セミナー(※3)に開催協力しています。「老人や障害を持つ人をケアする人は、当たり前すぎて自分がケアしていると気付かない人も多い。でも実はケアする人をケアするって絶対必要ですよね。」と紅邑常務理事。顔きながら伊藤さんが続けます。「家族や介護施設職員をきちんとケアする必要があると思ひます。ケアされる人が安心して生活する為には、ケアする人が安定していることが必要です。」ある日突然ケアが必要となる高次脳機能障害の方はどうなのか、後藤さんが教えて下さいます。「高次脳機能障害は、事故やくも膜下出血などを原因に突然になってしまいます。本人や家族はもちろん、職場はとても戸惑いますよね。仕事を続けられない場合もあり、家族の動揺も大きい。そんな状況に対して周囲がどう支えるのか、大きな問題です。」伊藤さんも「本人もやり場のない感情を家族にぶつける。それを受け止めなきゃいけな

い家族は相当にしんどいんです。」と教えて下さいました。

—褒めるって特別なことじゃない！—

イギリスでは生徒の個性を活かす教育が行われている、と書物で知った英国の様子を紅邑常務理事が語ることから、話題は教育へ。日本じゃ、と伊藤さんが続けます。「皆と同じことが評価される。子を褒めるという行為も何か頑張った時と普通思うけど、そうじゃない。当たり前に出ることを褒めるからこそ、自分はこれでいいっていう自己評価につながる。母親に子どものいい部分を挙げさせても最初は殆ど出てこないんです。でも毎朝おはようって起きてくる、毎日学校へ行く、それってすごいことよなって言うと、それでいいんですかって母親がハツとするんです。」残念ながら、日本の教育は褒めるということを取り違えているのでは、というご意見を受けて「スタッフ(利用者)とは、良いところ探しをするんです。ある人は褒められたことがない。自己肯定感が低いから、褒められてるって分からない。そこで私との交換日記で出来てることを毎日書き出してみたり。ケアする人をケアするにつなぐりますが、やっぱりケアする側に余裕が無いと、細かい所を感じとれなくなる。やはりケアする人をしっかりケアする仕組みが必要だと思ひます。」と後藤さんがご自身の経験を交えてお話し下さいました。

老人や障害を持つ方の介護は誰しも他人事ではありません。自分がケアする、される立場になった時を想像し、いろいろ考えさせられる回であった第6回でした。次回もどうぞお楽しみに！(小川真美)



※1) 脳の機能的な偏りから、様々な生活のしにくさを生じる障害。発達障害者支援法では、自閉症、アスペルガー症候群とその他の広汎性発達障害、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等としている。

※2) 事故や病気等によって脳に損傷を受け、行動障害や記憶障害などを生じ、それが原因で日常生活への適応が難しくなる障害。

※3) ケアする人(介護が必要な人を世話する人)へのケアを支援するセミナー「ケアする人のケア」セミナーを、2010年2月3日(水)にエル・パーク仙台にて開催予定。財団法人たんぼの家主催、当センターが協力の形で開催に向けて準備中。